

# 2013日韓学生対抗自転車競技大会報告

強化育成部会長 折本 裕樹

19回を迎える日韓学生対抗は親善大会から形を対抗戦へと変え、開催国を隔年で行っている。レポートについては高体連ホームページからの抜粋、大会結果はリザルトを参照していただきたい。

## 1 選手選考から出発まで

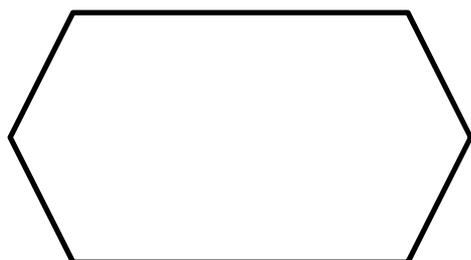
高校生はインターハイから選手を選考した。選考方法には①大会で走らせたい選手を適正な種目へ出場させる方法②実施種目に合わせて最善と思われる選手を選考する方法である。対抗戦、国別総合優勝を狙う観点に立つと万遍なく走れる選手(団体種目と個人種目等)として②が選択された。

更に団体種目として高校男子はチームスプリントであり、数限りないスタート練習やコンビネーションが重要であり、合宿をして仕上げる余裕がない以上、チームとして所属高校からの選考は有効であった。しかし、年によってはチームスプリントとチームパーシュートのレベル差が生じ、ブロック大会から注視する必要がある。選手選考後は各所属のトレーニングで全国都道府県対抗や国民体育大会出場者がほとんどで各選手共に活躍をしていた。出発1週間位までは顧問を通して、選手の様子を確認し、特段問題はなかった。出発までの準備は大変な労力を要した。本来ならば大会中の戦略・戦術について力を注ぐべきコーチ役割が総務事項で振り回されてしまった。遠征に必要な事項等を一連のフォーマットを作成し、遺漏と手間の無いようにしたい。

## 2 戦績等の考察(リザルトは別添)

バンク形状(333.33mUCI公認)は上空から見ると六角形。500m走路を思わせる直線の長さで250m走路のような急コーナーを合わせて持ったバンク。日本の競輪場のように手放して乗れる代物ではない。特に短距離選手、パワーで踏んでいくタイプの選手(高校生:滝本 大学生:佐伯)などは前乗り重心のためコーナーで後輪のスリップ症状続出。海外バンクの場合対策が必要。

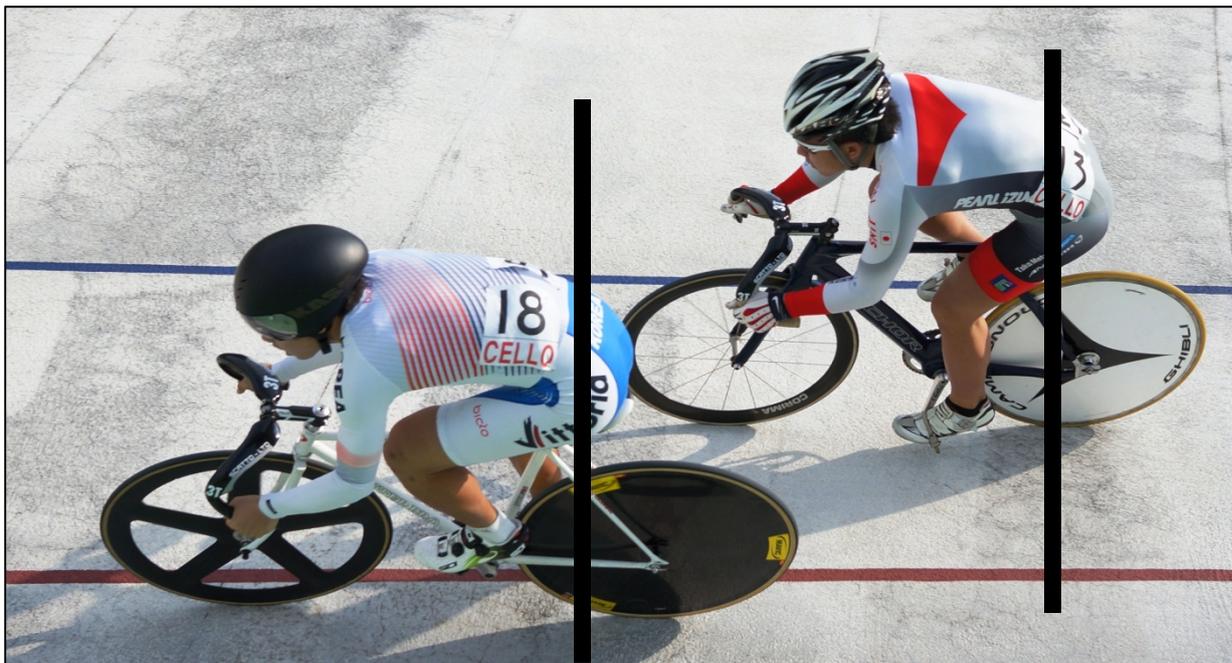
バンクは上から見ると六角形



直線が長くコーナーがきつい。ウェークトップはない、コンクリートバンク



急なコーナーでは後輪がスリップする選手

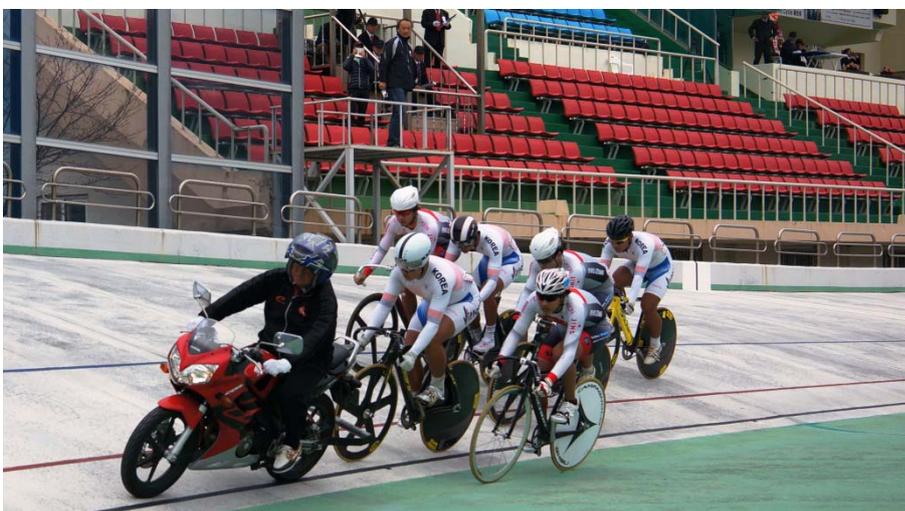


スプリント対戦時 滝本（岡山工業）中バンク近くでは安定した走りであるが、スプリンターレーン内を全力走行するとコーナーで後輪スリップ、200mハロン・1km・チームスプリントでも同様であった。

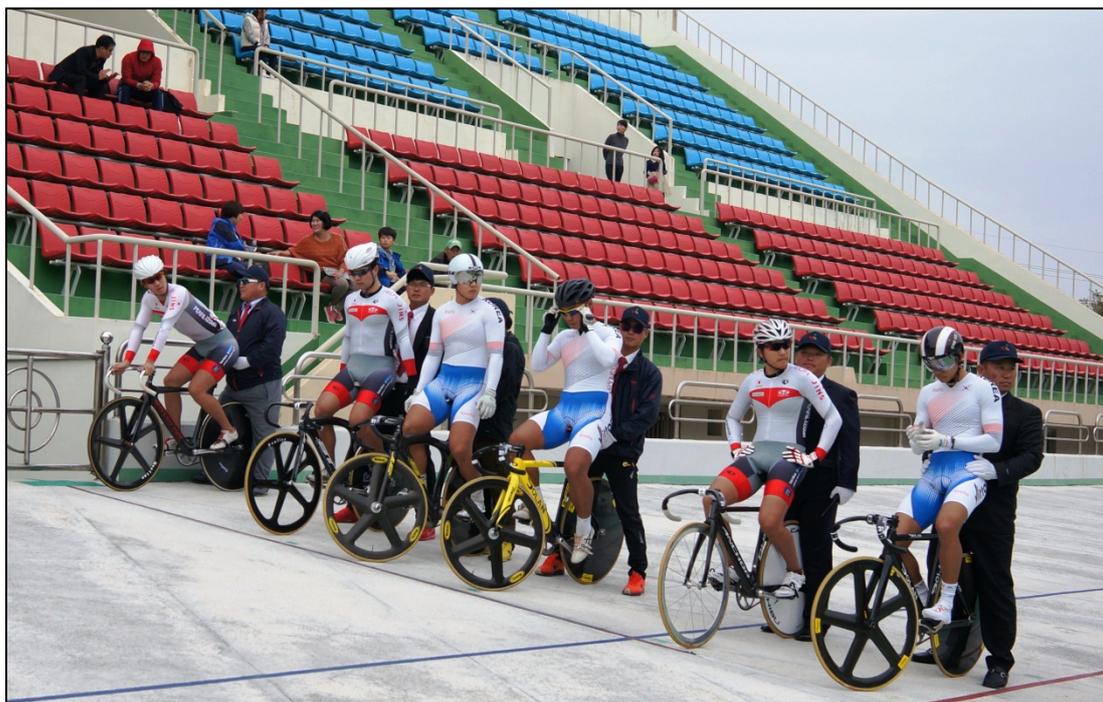


ウォーミングアップ  
低速走行・中バンクでは問題ない

ケイリン（結果的にバイクの後ろを取った田邊が押し込まれてしまう） 日本では確実に違反

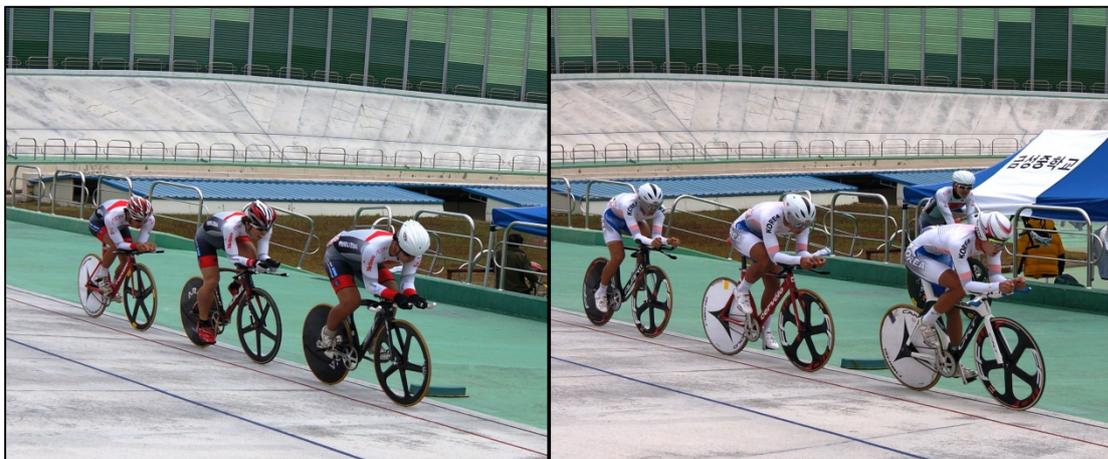


ケイリン (スタート前)



佐伯 末木 優勝した韓国高校生 大学生 田邊 大学生

【団体種目】 韓国選手は測定ラインを綺麗に回れていた。



### 3 現状を踏まえての改善や検討事項

#### (1) 全体所感

本大会へ参加して、発足当時からの趣旨や目的のズレを感じた。ある目的をもってスタート、しかし、世代交代が両国ともに進み、同時に取り巻く環境の変化など実担当者との引継ぎができていない気がした。大会を相互に開催し両国の競技力を確かめ合うことにより両国自転車競技の発展を期する目的であったはずが、大会参加・渡航目的となっているのではないか。ここ数年、日本開催は高体連主導、日本からの遠征は学連が中心となって企画をはじめとする事務処理を担当している。一時、高体連は日韓学生から撤退する（経費・内容・労力）事態まで陥ったが高体連理事長をはじめとする現執行部の努力で持ち直した経緯がある。その裏には創意工夫と手作り感、足で歩いた労苦によって日本開催は行われている。直接、関わらなかった方にも現状及び問題点の共有を望みたい。

#### (2) 各担当の役割と連携

学連・高体連（強化育成部・事務局）代表者を集めての全体会議を1度は持った方が良い。特に会計システムの変更には深い理解が必要で、電話および電子メールだけでは意思の疎通と迅速性に欠けると感じた。

#### (3) 総務事項（大会日程・往復の交通手段・準備品・予算その他）

##### ①大会日程

1月3連休、前日出発は航空券が一番高騰している。成田発往復で約6万円台。関空発着では当初、6席しか確保できず不足分はキャンセル待ちで確保できたが8万円を超えてしまった。もう1日早い出発など工夫はできたかも知れない。

##### ②往復の交通手段

今回は関空・成田に分かれて発着した。前泊者以外は当日集合でき、時間・経費の削減になったと思う。関空発は全て高体連関係者9名であり、オフィシャル選手団（20名）以外にアディショナル・スタッフとして3名（理事長・事務局長・該当高校顧問）が自己負担で参加して頂き、そのアディショナル・スタッフに発着の面倒を見て頂いた。

##### ③準備品等

自転車および予備タイヤは選手各自持参。3本ローラー4台は関空、成田に分け、ポンプ2台も同様に持参した。学連に2台簡易ローラーを持参してもらったが、選手からの評判は良くなかった。連続して競技が行われ、走り終わった選手のクールダウンを考えるとやや不足気味である。遠征用に購入もできず、所属からの借用であったが荷物重量からすると妥当である。

##### ④予算その他

JCF（JKA補助金）の申請から執行までシステムが大幅に変わり、申請された目的外使用はできない。そればかりか平成23年度分もJKAから不備が指摘をされており、事業後の支払いが滞っている状況である。本年度も総経費から自己負担分を差し引いた残額を学連・高体連で折半するが、先に必要とする金銭の支払いの為に高体連理事長が個人的に30万の立て替えをしている状況は今後、解消しなければならない。

#### (4) 競技面（選手状況）

出場種目はそれぞれの担当コーチから事前連絡し、種目に合わせトレーニングを促した。しかし、高校生は国体参加そして部活動の中で活動しており問題はなかった。女子選手は韓国選手は全て高校生であり日本の競技力の高さが露呈した。女子チームスプリントでは交代違反の為、繰り上げ金メダルであった。韓国は現在、オーストラリア方式を取り入れ短距離養成に力を入れ（ハイ・ギア）使用している。

#### (5) 今後の在り方

選手の継続育成の観点や事業として在り方、そして予算確保を考えるならば学生のくくりよりジュニア・エリートといったカテゴリ別の大会実施も検討すべきである。